

平成24年（2012）

静岡県消費者物価指数年報

（平成22年基準）

平成25年 3月

静岡県企画広報部情報統計局統計調査課

目 次

I 利用者のために	1
II 平成24年静岡県消費者物価指数の動き	
1 概 要	2
2 月別の動き	5
3 費目別の動き	
(1) 食 料	8
(2) 住 居	9
(3) 光 熱 ・ 水 道	9
(4) 家具・家事用品	9
(5) 被服及び履物	10
(6) 保 健 医 療	10
(7) 交 通 ・ 通 信	10
(8) 教 育	11
(9) 教 養 娛 楽	11
(10) 諸 雑 費	11
4 財・サービス分類別指数の動き	12
5 寄与度・寄与率	13
(参考) 静岡県消費者物価指数の年別推移	14
III 統計表	
第1表 静岡県消費者物価指数 中分類指数	16
第2表 静岡県消費者物価指数 中分類指数 寄与度、寄与率	24
第3表 静岡県消費者物価指数 地域別中分類指数	26
第4表 静岡県消費者物価指数 財・サービス分類指数	28
第5表 静岡県消費者物価指数 品目別価格指数	32
IV 静岡県消費者物価指数の概要(平成22年基準)	38
V 静岡県消費者物価指数(平成22年基準) 品目一覧	42

I 利用者のために

- 1 この年報の数値は、県が独自に調査集計した小売価格等を、県採用の銘柄、ウエイト等で計算したものであり、総務省統計局から公表される数値とは異なる場合があります。
- 2 静岡県消費者物価指数は、物価の動きを時系列的に見ようとするもので、物価の地域格差を示すものではありません。
- 3 統計表等に用いた記号の用法は次のとおりです。
 - － …… 該当の数値がないもの。
 - 0.0 …… 端数四捨五入による単位未満のもの。
 - － 数値 …… 数値の前に付して負数であることを示す。
- 4 静岡県消費者物価指数は毎月作成し、26日を含む週の金曜日に以下のとおり公表していますので御利用ください。
印刷物：統計調査課及び県民サービスセンターに配架。
インターネットアドレス：<http://toukei.pref.shizuoka.jp/>
静岡県ホームページ (<http://www.pref.shizuoka.jp/>)
「県政情報」→「統計・調査」→「統計センターしずおか」を選択
- 5 指数の作成に関する詳細は、『IV 静岡県消費者物価指数の概要（平成22年基準）』（P 38～P 41）を参照してください。

この年報についての問い合わせ先

〒420－8601

静岡市葵区追手町9番6号

静岡県企画広報部情報統計局

統計調査課消費班

TEL 054－221－2236(直通)

FAX 054－221－3609

II 平成24年静岡県消費者物価指数の動き

1 概要

平成24年平均の静岡県消費者物価指数は、平成22年を100とした**総合指数**で**99.6**となり、前年と**同水準**となった。

生鮮食品を除く総合指数は**99.7**で、前年比**0.1%の上昇**となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は**98.2**で、前年比**0.6%の下落**となった。

図1 静岡県消費者物価指数の年別推移（平成22年=100）

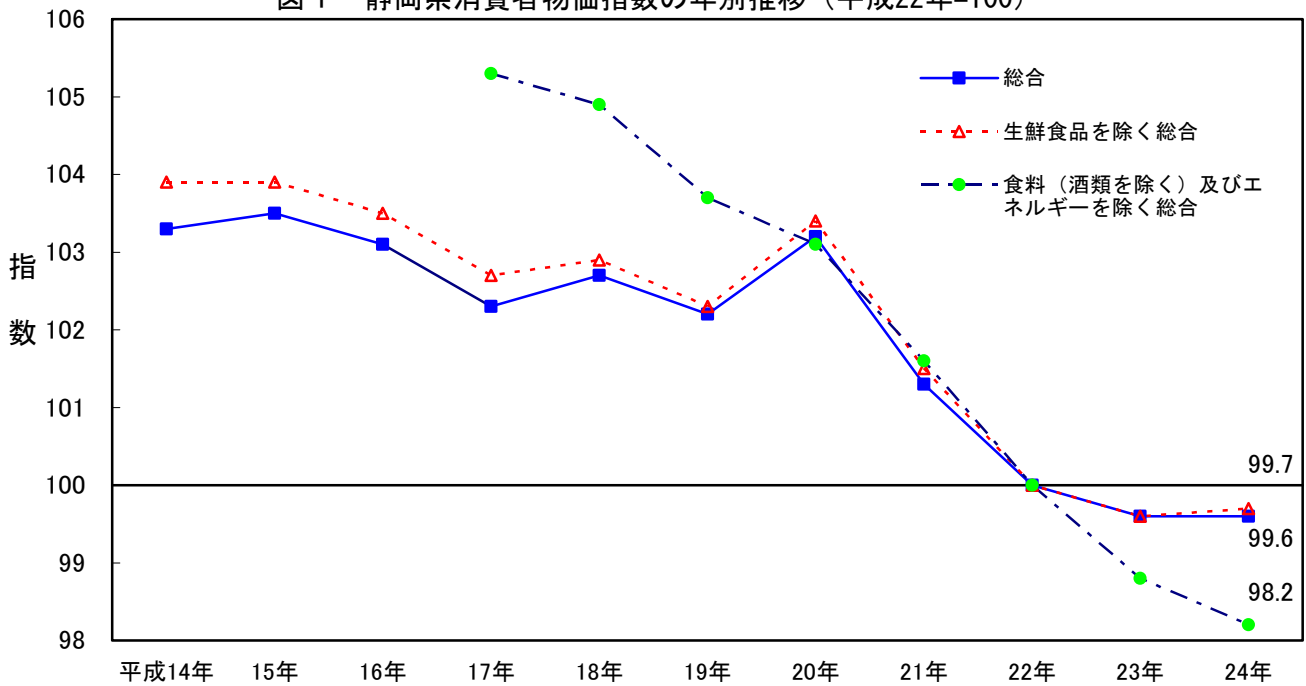


表1 静岡県消費者物価指数の年別推移及び前年比（平成22年=100）

平成		14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
総合	指数	103.3	103.5	103.1	102.3	102.7	102.2	103.2	101.3	100.0	99.6	99.6
	前年比(%)	-0.9	0.1	-0.4	-0.8	0.4	-0.5	1.0	-1.9	-1.2	-0.4	0.0
生鮮食品を除く総合	指数	103.9	103.9	103.5	102.7	102.9	102.3	103.4	101.5	100.0	99.6	99.7
	前年比(%)	-0.8	0.1	-0.5	-0.7	0.2	-0.6	1.0	-1.8	-1.5	-0.4	0.1
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	指数	—	—	—	105.3	104.9	103.7	103.1	101.6	100.0	98.8	98.2
	前年比(%)	—	—	—	—	-0.4	-1.1	-0.5	-1.5	-1.6	-1.2	-0.6

（注）食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は平成17年より公表。

10大費目別にみると、「光熱・水道」が原燃料価格の上昇や東京電力の電気料金の改定などにより4.4%の上昇、「被服及び履物」が夏場のセール開始時期の分散化の影響などにより1.5%の上昇、「食料」が国産米やうなぎかば焼きの値上がりなどにより0.5%上昇、「教育」が専門学校授業料の値上がりなどにより0.5%上昇した。

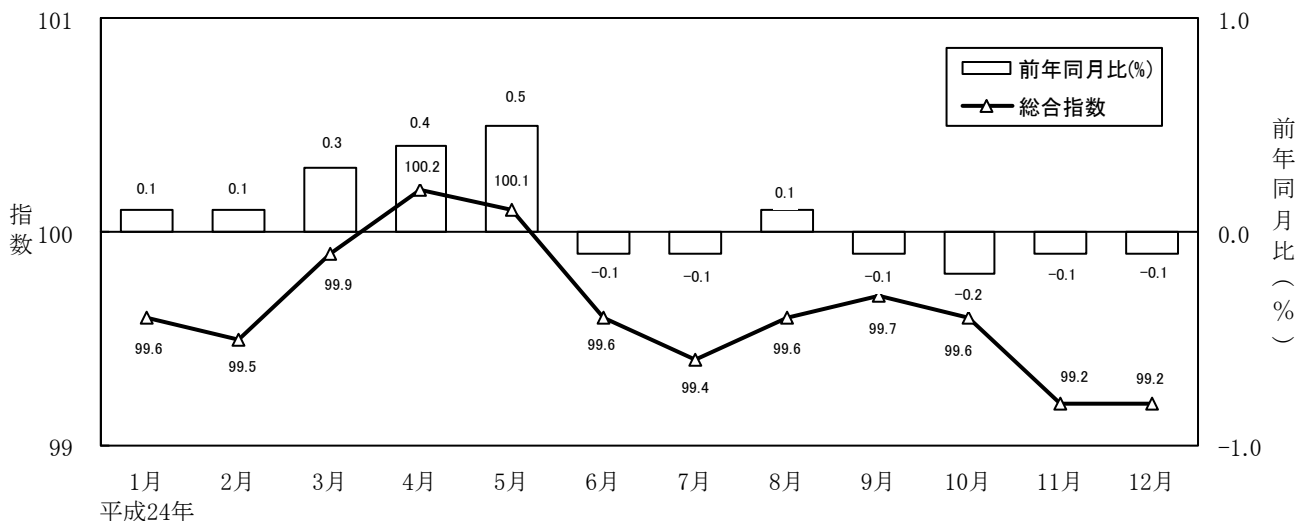
一方、店舗間で激しい価格競争が続くテレビや電気冷蔵庫などの家電製品は値崩れが進み、「家具・家事用品」が2.7%の下落、「教養娯楽」が2.5%の下落となったほか、「保健医療」が0.9%下落、「住居」が0.5%下落した。（表2参照）

表2 10大費目別消費者物価指数の推移 (平成22年=100)

区 分	平成23年			平成24年		
	指数	前年比(%)	寄与度	指数	前年比(%)	寄与度
総 合	99.6	-0.4	—	99.6	0.0	—
食 料	99.6	-0.4	-0.10	100.1	0.5	0.13
住 居	99.4	-0.6	-0.12	98.9	-0.5	-0.10
光 熱・水 道	103.7	3.7	0.26	108.3	4.4	0.33
家具・家事用品	93.8	-6.2	-0.23	91.3	-2.7	-0.09
被服及び履物	98.7	-1.3	-0.05	100.2	1.5	0.06
保 健 医 療	99.0	-1.0	-0.04	98.1	-0.9	-0.04
交 通・通 信	101.6	1.6	0.25	102.0	0.4	0.06
教 育	98.9	-1.1	-0.03	99.4	0.5	0.01
教 養 娯 楽	94.9	-5.1	-0.59	92.5	-2.5	-0.28
諸 雑 費	103.6	3.6	0.21	103.4	-0.2	-0.01

総合指数の月別の動きをみると、ガソリンなどのエネルギー関連品目や生鮮食品等の上昇により、平成24年1月に前年同月比が、平成20年12月以来37ヵ月ぶりにプラスに転じ、5月まで上昇が続いた。その後、6月以降は、8月を除きマイナスとなったが、下落率は-0.1%から-0.2%の小幅な動きで推移し、大幅な下落は見られなかった。（図2参照）

図2 総合指数の月別の動き（前年同月比）



財・サービス分類指数をみると、**財指数は99.4**で、前年比**0.3%の上昇**となり、平成20年以來4年ぶりにプラスに転じた。

その内訳は、原燃料価格の値上がりや東京電力の料金改定等により「電気・都市ガス・水道」が5.3%の上昇、ガソリンなどの「石油製品」が1.1%上昇し、国産米などの値上がりにより「他の農水畜産物」が9.3%上昇した。

一方、価格競争が激しい耐久消費財等を含む「他の工業製品」が、2.6%下落した。

サービス指数は99.9で、前年比**0.1%の下落**となり、その内訳は「公共サービス」が自動車保険料の改定等により0.8%上昇、「一般サービス」が0.4%下落した。

図3 財・サービス分類指数の年別推移（前年比）

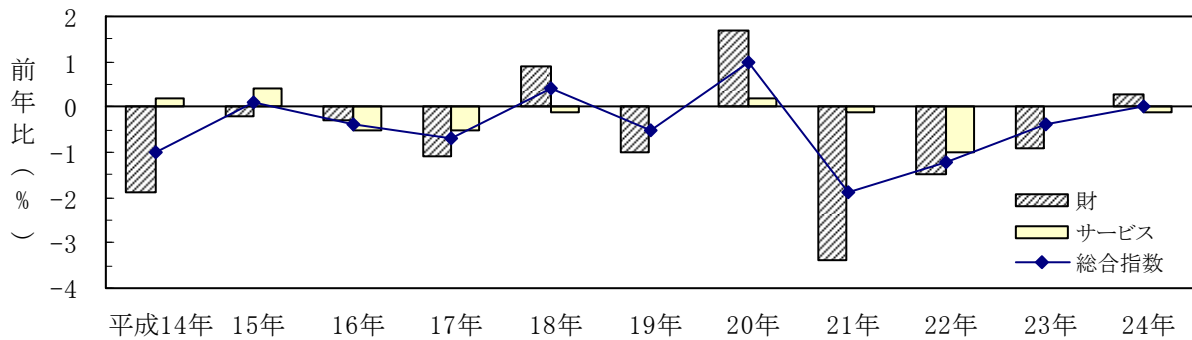


表3 財・サービス分類指数の年別推移及び前年比

区分	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年
総合	103.3	103.5	103.1	102.3	102.7	102.2	103.2	101.3	100.0	99.6	99.6
前年比 (%)	-0.9	0.1	-0.4	-0.8	0.4	-0.5	1.0	-1.9	-1.2	-0.4	0.0
財	105.2	104.9	104.6	103.5	104.4	103.4	105.2	101.5	100.0	99.1	99.4
前年比 (%)	-1.9	-0.2	-0.3	-1.1	0.9	-1.0	1.7	-3.4	-1.5	-0.9	0.3
サービス	101.6	102.0	101.5	101.0	100.9	101.0	101.2	101.0	100.0	100.0	99.9
前年比 (%)	0.2	0.4	-0.5	-0.5	-0.1	0.0	0.2	-0.1	-1.0	0.0	-0.1

2 月別の動き

10大費目の前月比でみた月別の動きは、次のとおりとなった。

なお、「上昇した主な項目」及び「下落した主な項目」は、総合指数への寄与が大きかった中分類の項目の前月比と主な品目の内訳である。

1月 総合指数 99.6 前月比 (+)0.3%

「食料」が生鮮野菜や生鮮果物などの値上がりにより2.1%の上昇となった。

一方、「被服及び履物」が冬物衣料などの値下がりにより4.5%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 生鮮野菜 (+)20.1% <キャベツ、ねぎなど>
生鮮果物 (+)17.6% <みかんなど>
- ・下落した主な項目…… 洋服 (-)8.4% <婦人コートなど>
教養娯楽サービス (-)1.0% <外国パック旅行など>

2月 総合指数 99.5 前月比 (-)0.1%

「家具・家事用品」が家庭用耐久財などの値上がりにより1.1%の上昇となった。

一方、「被服及び履物」が冬物衣料の値下がりにより1.9%の下落、「教養娯楽」が教養娯楽サービスなどの値下がりにより0.4%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 生鮮果物 (+)5.7% <みかん、いちごなど>
家庭用耐久財 (+)2.2% <ルームエアコンなど>
- ・下落した主な項目…… シャツ・セーター類 (-)7.4% <婦人セーター(長袖)など>
教養娯楽サービス (-)0.7% <外国パック旅行など>

3月 総合指数 99.9 前月比 (+)0.4%

「交通・通信」がガソリンなどの値上がりにより1.6%の上昇、「被服及び履物」が春物衣料の出回りなどにより3.3%の上昇、「教養娯楽」が教養娯楽サービスの値上がりにより0.7%の上昇となった。

一方、「食料」が菓子類などの値下がりにより0.3%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 自動車等関係費 (+)2.2% <ガソリンなど>
洋服 (+)8.0% <男子ズボンなど>
教養娯楽サービス (+)1.4% <外国パック旅行など>
- ・下落した主な項目…… 菓子類 (-)2.0% <ケーキなど>

4月 総合指数 100.2 前月比 (+)0.3%

「被服及び履物」が春夏物衣料の出回りなどにより3.8%の上昇、「交通・通信」がガソリンなどの値上がりにより0.6%の上昇、「光熱・水道」が0.7%の上昇となった。

一方、「食料」が生鮮果物などの値下がりにより0.2%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… シャツ・セーター類 (+)21.2% <スポーツシャツなど>
自動車等関係費 (+)1.0% <ガソリンなど>
ガス代 (+)1.9% <プロパンガスなど>
- ・下落した主な項目…… 生鮮果物 (-)11.2% <いちごなど>

5月 総合指数 100.1 前月比 (-)0.1%

「教養娯楽」が教養娯楽サービスや教養娯楽用品などの値上がりにより0.9%の上昇となった。

一方、「交通・通信」がガソリンなどの値下がりにより0.6%の下落、「家具・家事用品」が家庭用耐久財などの値下がりにより0.8%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 教養娯楽サービス (+) 1.1% <宿泊料など>
教養娯楽用品 (+) 2.2% <トレーニングパンツなど>
- ・下落した主な項目…… 自動車等関係費 (-) 0.9% <ガソリンなど>
家庭用耐久財 (-) 1.8% <電気冷蔵庫など>

6月 総合指数 99.6 前月比 (-)0.5%

「光熱・水道」が電気代などの値上がりにより0.1%の上昇となった。

一方、「交通・通信」がガソリンなどの値下がりにより1.6%の下落、「食料」が生鮮野菜などの値下がりにより0.6%の下落、「教養娯楽」が教養娯楽サービスの値下がりにより0.8%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 電気代 (+) 0.6% <電気代>
- ・下落した主な項目…… 自動車等関係費 (-) 2.3% <ガソリンなど>
生鮮野菜 (-) 6.8% <トマト、キャベツなど>
教養娯楽サービス (-) 1.1% <宿泊料など>

7月 総合指数 99.4 前月比 (-)0.2%

「教養娯楽」が教養娯楽サービスなどの値上がりにより0.8%の上昇となった。

一方、「交通・通信」がガソリンなどの値下がりにより0.5%の下落「被服及び履物」が夏物衣料の値下がりにより1.5%の下落、「食料」が生鮮果物などの値下がりにより0.2%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 教養娯楽サービス (+) 0.7% <外国パック旅行など>
- ・下落した主な項目…… 自動車等関係費 (-) 0.8% <ガソリンなど>
洋服 (-) 2.0% <春夏物スカートなど>
生鮮果物 (-) 6.8% <さくらんぼなど>

8月 総合指数 99.6 前月比 (+)0.2%

「教養娯楽」が教養娯楽サービスなどの値上がりにより1.7%の上昇、「光熱・水道」が電気代などの値上がりにより0.8%の上昇となった。

一方、「被服及び履物」が夏物衣料などの値下がりにより2.0%の下落、「保健医療」が医薬品・健康保持用摂取品などの値下がりにより0.7%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 教養娯楽サービス (+) 3.5% <宿泊料など>
電気代 (+) 1.6% <電気代>
- ・下落した主な項目…… シャツ・セーター類 (-) 4.8% <スポーツシャツなど>
医薬品・健康保持用摂取品 (-) 1.4% <漢方薬など>

9月 総合指数 99.7 前月比 (+)0.1%

「被服及び履物」が秋冬物衣料の出回りにより4.8%の上昇、「光熱・水道」が東京電力の料金改定による電気代の値上がりなどにより1.4%の上昇となった。

一方、「教養娯楽」が教養娯楽サービスなどの値下がりにより1.8%の下落、「食料」が生鮮魚介などの値下がりにより0.3%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… シャツ・セーター類(+)
13.1% <婦人セーターなど>
電気代 (+) 2.7% <電気代>
- ・下落した主な項目…… 教養娯楽サービス (-) 2.9% <宿泊料など>
生鮮魚介 (-) 3.0% <かつお、あじなど>

10月 総合指数 99.6 前月比 (-)0.1%

「交通・通信」が自動車等関係費などの値上がりにより0.2%の上昇となった。

一方、「食料」が飲料や調理食品などの値下がりにより0.2%の下落、「教養娯楽」が教養娯楽用品などの値下がりにより0.4%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 自動車等関係費 (+) 0.1% <自動車保険料(任意)>
- ・下落した主な項目…… 飲料 (-) 3.5% <コーヒー豆など>
調理食品 (-) 1.5% <調理パン、からあげなど>
教養娯楽用品 (-) 1.4% <トレーニングパンツなど>

11月 総合指数 99.2 前月比 (-)0.4%

「被服及び履物」が冬物衣料などの値上がりにより1.4%の上昇となった。

一方、「食料」が生鮮野菜などの値下がりにより0.7%の下落、「交通・通信」がガソリンなどの値下がりにより1.1%の下落、「教養娯楽」が教養娯楽サービスなどの値下がりにより1.1%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 洋服 (+) 3.1% <婦人スラックスなど>
- ・下落した主な項目…… 生鮮野菜 (-) 4.2% <ほうれんそうなど>
自動車等関係費 (-) 0.9% <ガソリンなど>
教養娯楽サービス (-) 1.3% <外国パック旅行など>

12月 総合指数 99.2 前月比 (±)0.0%

「食料」が生鮮果物や生鮮野菜などの値上がりにより0.7%の上昇、「交通・通信」がガソリンなどの値上がりにより0.2%の上昇となった。

一方、「教養娯楽」が教養娯楽サービスなどの値下がりにより0.8%の下落、「被服及び履物」が秋冬物衣料などの値下がりにより1.0%の下落となった。

- ・上昇した主な項目…… 生鮮果物 (+)10.4% <いちご、みかんなど>
生鮮野菜 (+) 7.1% <レタス、ほうれんそうなど>
自動車等関係費 (+) 0.2% <ガソリンなど>
- ・下落した主な項目…… 教養娯楽サービス (-) 1.4% <インターネット接続料など>
洋服 (-) 1.7% <婦人コートなど>

3 費目別の動き

(1) 食料

食料は100.1となり、前年に比べ0.5%の上昇となった。

内訳をみると、穀類が国産米などの値上がりにより3.3%の上昇、調理食品がうなぎかば焼きなどの値上がりにより3.5%の上昇となった。一方、乳卵類が鶏卵などの値下がりにより2.1%の下落、油脂・調味料が液体調味料などの値下がりにより1.6%の下落となった。

生鮮食品についてみると、生鮮魚介が0.8%の上昇、生鮮野菜が3.2%の下落、生鮮果物が1.8%の上昇となり、生鮮食品全体では97.1となり、0.6%の下落となった。

生鮮食品を除く食料は100.6となり、前年に比べ0.7%の上昇となった。

図4 食料指数の動き

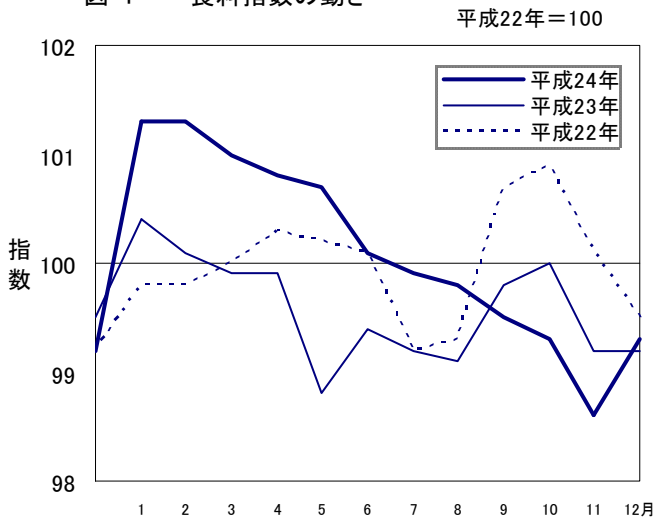


図5 生鮮食品指数の動き

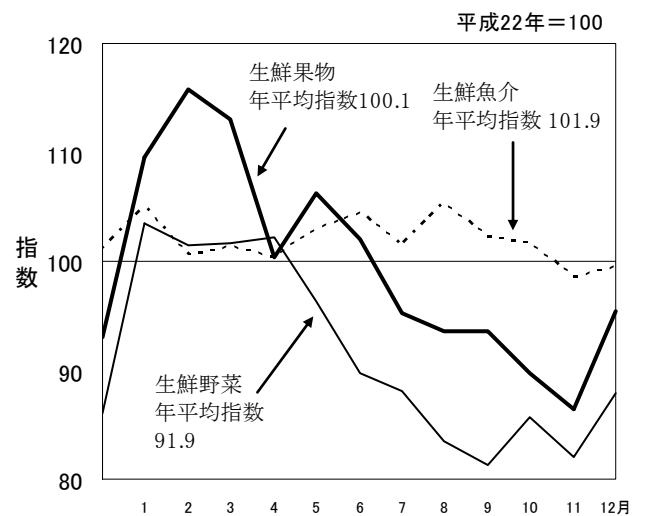
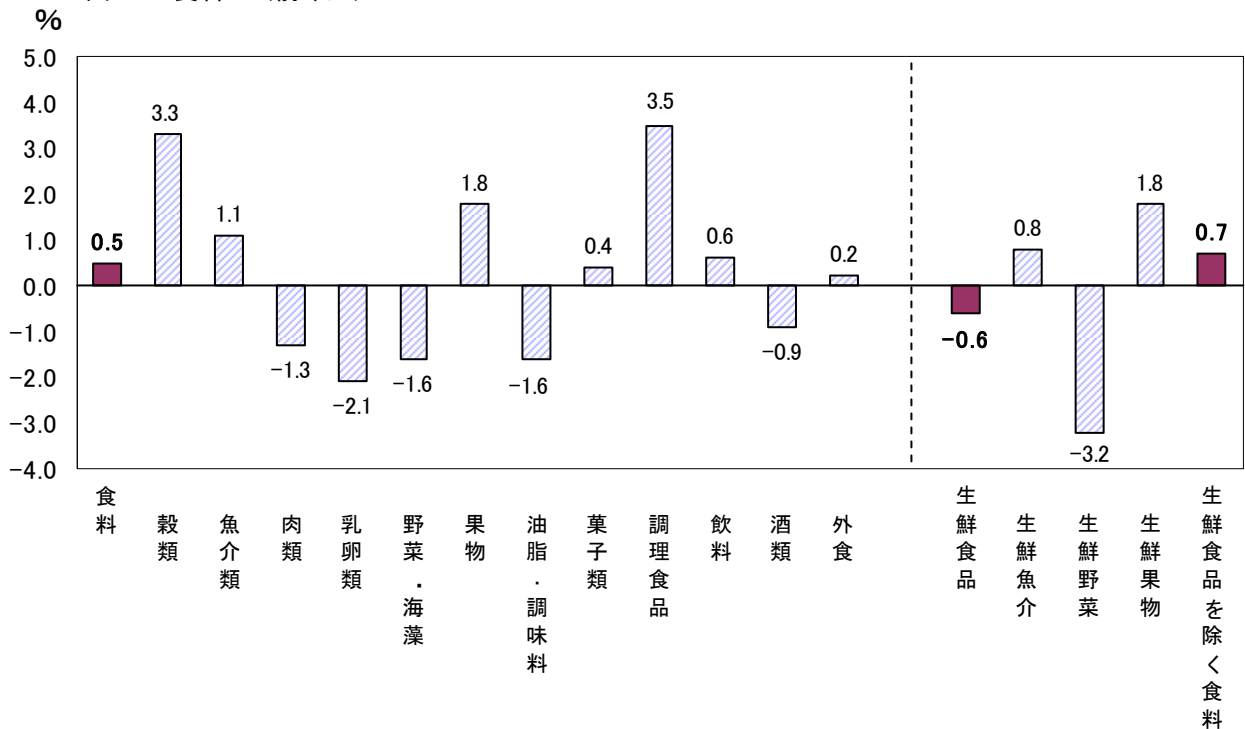


図6 食料 (前年比)



(2) 住居

住居は98.9となり、前年と比べ0.5%の下落となった。

内訳をみると、家賃が民営家賃などの値下がりにより0.7%の下落、設備修繕・維持がシステムキッチンなどの値上がりにより1.1%の上昇となった。

図7 住居指数の動き

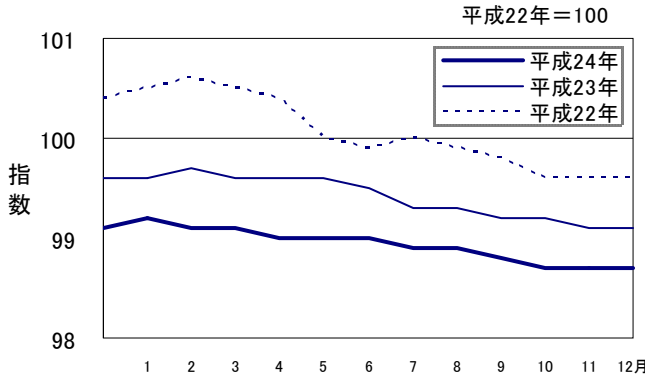
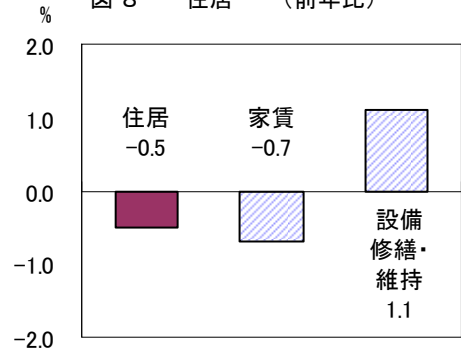


図8 住居 (前年比)



(3) 光熱・水道

光熱・水道は108.3となり、前年と比べ4.4%の上昇となった。

内訳をみると、電気代が7.5%の上昇、ガス代が2.6%の上昇、他の光熱が灯油の値上がりにより2.0%の上昇となった。

図9 光熱・水道指数の動き

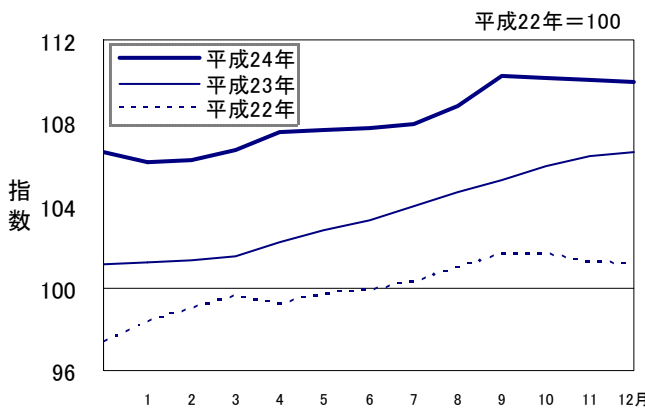
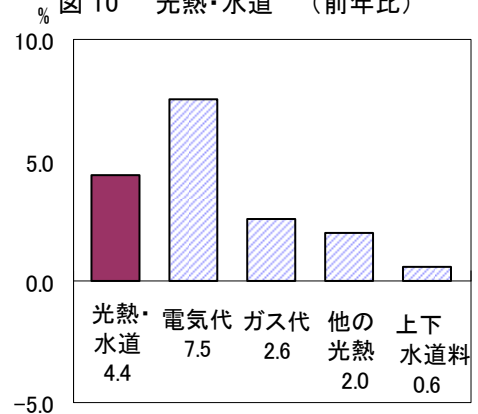


図10 光熱・水道 (前年比)



(4) 家具・家事用品

家具・家事用品は91.3となり、前年に比べ2.7%の下落となった。

内訳をみると、家庭用耐久財が電気冷蔵庫などの値下がりにより8.3%の下落、室内装備品が照明器具の値下がりにより1.9%の下落となった。

図11 家具・家事用品指数の動き

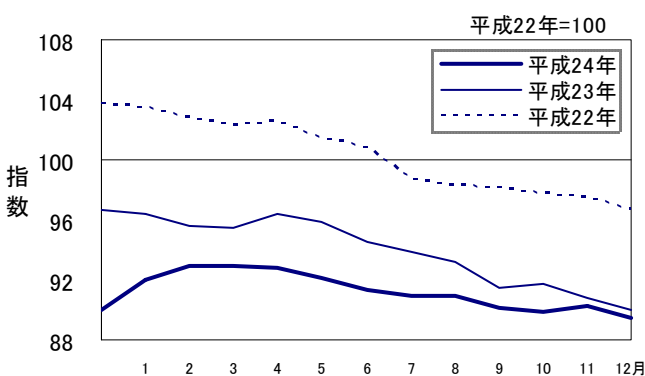
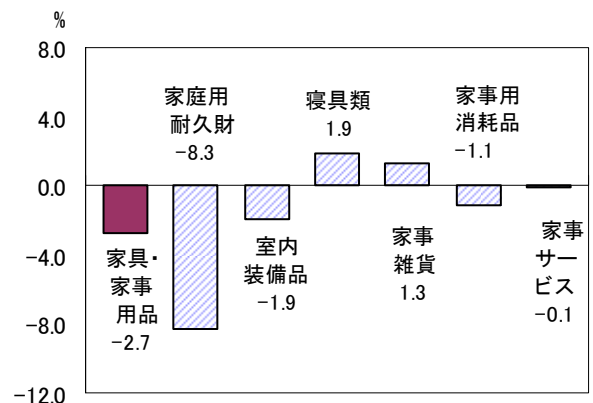


図12 家具・家事用品 (前年比)



(5) 被服及び履物

被服及び履物は100.2となり、前年に比べ1.5%の上昇となった。

内訳をみると、衣料が洋服全般の値上がりにより1.1%の上昇、シャツ・セーター・下着類がスポーツシャツ、婦人Tシャツなどの値上がりにより3.7%の上昇、履物類が男子靴、婦人靴などの値上がりにより1.6%の上昇となった。

図13 被服及び履物指数の動き

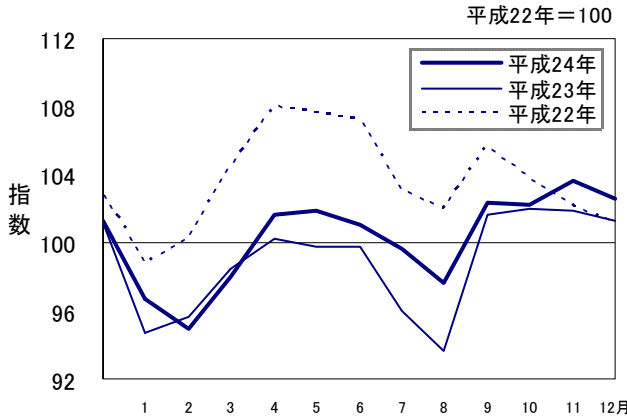
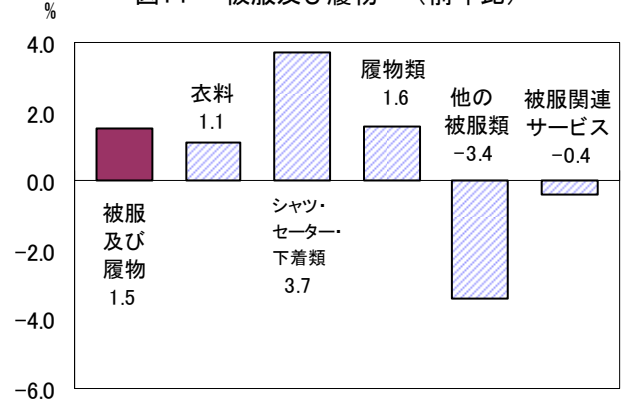


図14 被服及び履物 (前年比)



(6) 保健医療

保健医療は98.1となり、前年と比べ0.9%の下落となった。

内訳をみると、医薬品・健康保持用摂取品が感冒薬、胃腸薬などの値下がりにより2.7%の下落、保健医療サービスが診療代などの値上がりにより0.2%の上昇となった。

図15 保健医療指数の動き

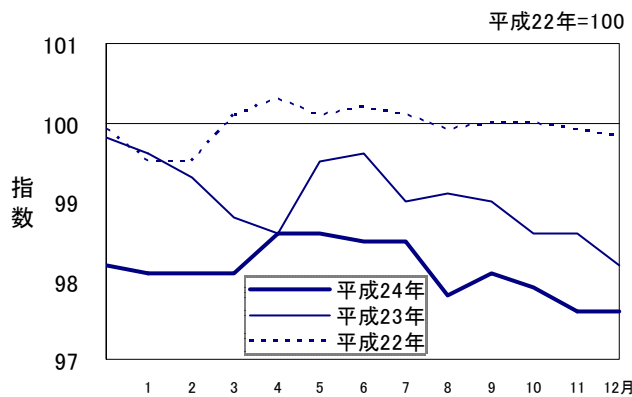
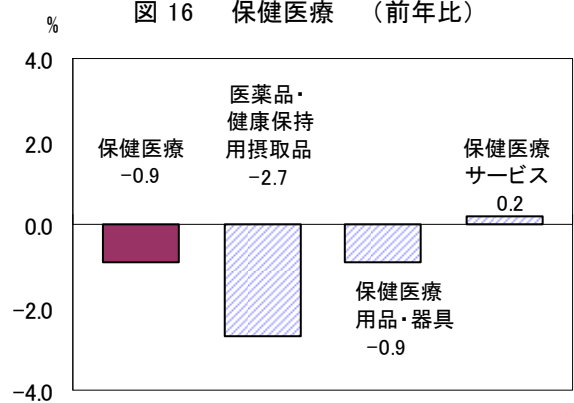


図16 保健医療 (前年比)



(7) 交通・通信

交通・通信は102.0となり、前年と比べ0.4%の上昇となった。

内訳をみると、自動車等関係費が普通乗用車、ガソリンなどの値上がりにより1.0%の上昇、通信が携帯電話機などの値下がりにより1.2%の下落となった。

図17 交通・通信指数の動き

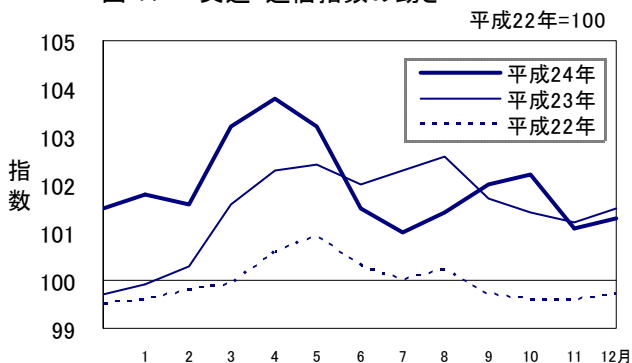
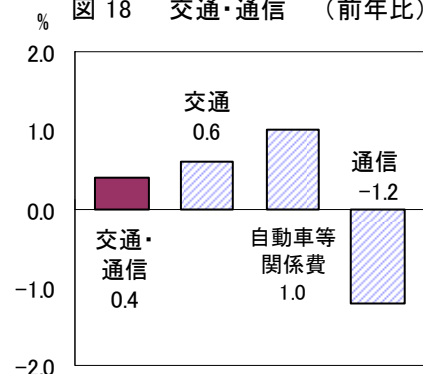


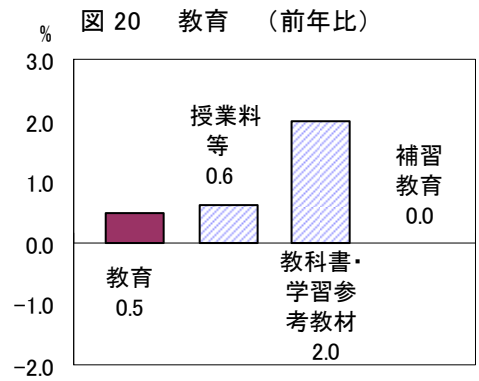
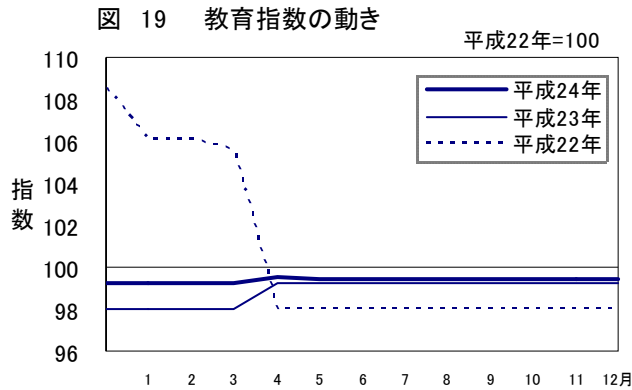
図18 交通・通信 (前年比)



(8) 教育

教育は99.4となり、前年と比べ0.5%の上昇となった。

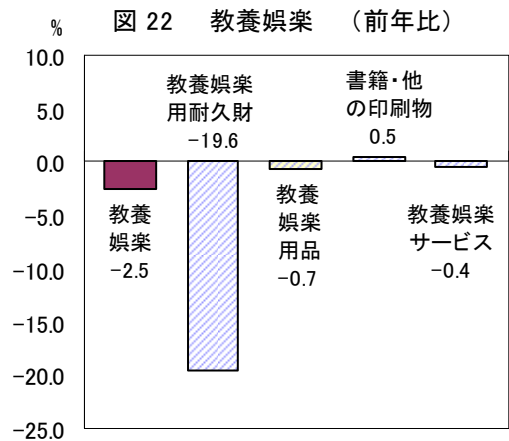
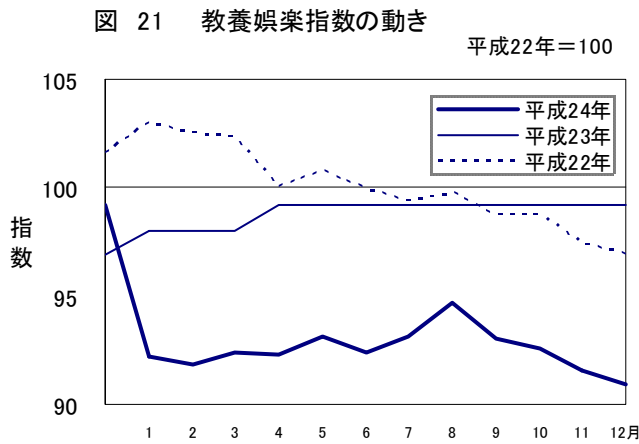
内訳をみると、授業料等が専門学校授業料などの値上がりにより0.6%の上昇となった。



(9) 教養娯楽

教養娯楽は92.5となり、前年と比べ2.5%の下落となった。

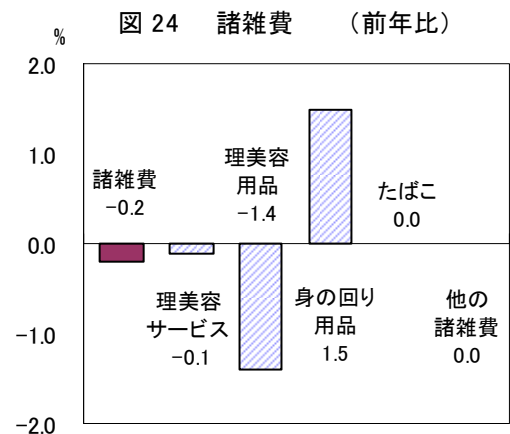
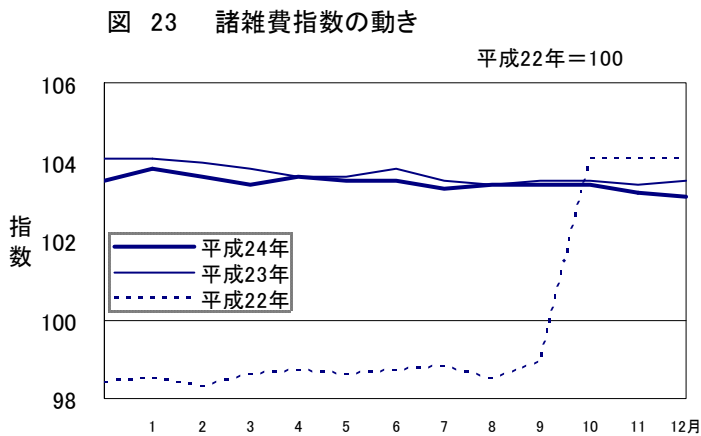
内訳をみると、教養娯楽用耐久財がテレビやパソコンなどの値下がりにより19.6%の下落、教養娯楽用品が家庭用ゲーム機などの値下がりにより0.7%の下落となった。



(10) 諸雑費

諸雑費は103.4となり、前年と比べ0.2%の下落となった。

内訳をみると、理美容用品が化粧水などの値下がりにより1.4%の下落、身の回り用品が通学用かばんなどの値上がりにより1.5%の上昇となった。



4 財・サービス分類別指数の動き

(1) 財指数の動き

「財」は 99.4となり、前年に比べ0.3%の上昇となった。

このうち「農水畜産物」は、「生鮮商品」が生鮮野菜などの値下がりにより0.6%の下落、「他の農水畜産物」が国産米などの値上がりにより9.3%の上昇となり、全体では0.8%の上昇となった。

「工業製品」は、「食料工業製品」が調理食品などの値上がりにより0.7%の上昇、「繊維製品」がシャツ・セーター類などの値上がりにより1.2%の上昇、「石油製品」がガソリン、プロパンガス、灯油の値上がりにより1.1%の上昇となったが、「他の工業製品」が家電製品などの値下がりにより2.6%の下落となり、全体では0.6%の下落となった。

「電気・都市ガス・水道」は、電気代や都市ガス代の値上がりにより5.3%の上昇、「出版物」は単行本などの値上がりにより0.6%の上昇となった。

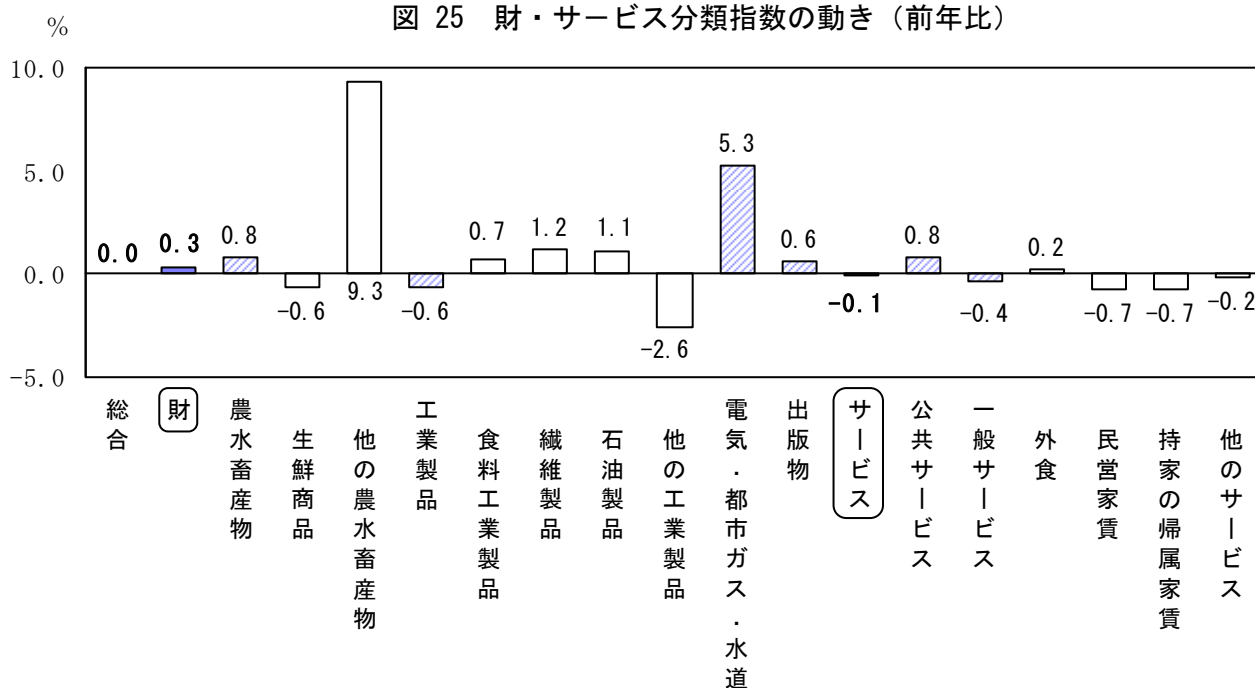
(2) サービス指数の動き

「サービス」は99.9となり、前年に比べ0.1%の下落となった。

このうち「公共サービス」は、0.8%の上昇となった。内訳を見ると、教養娯楽関連サービスが放送受信料（NHK）の値下がりにより0.1%の下落となったが、家事関連サービスが自動車保険料（任意）などの値上がりにより1.8%の上昇、運輸・通信関連サービスが高速道路料金などの値上がりにより0.2%の上昇となった。

「一般サービス」は、「外食」が0.2%の上昇となったが、「民営家賃」が0.7%の下落、「持家の帰属家賃」が0.7%の下落、「他のサービス」が0.2%の下落となり、全体では0.4%の下落となった。「他のサービス」の内訳を見ると、教育関連サービスが専門学校授業料などの値上がりにより0.5%の上昇となったが、家事関連サービスが車庫借料などの値下がりにより0.1%の下落、通信・教養娯楽関連サービスが外国パック旅行などの値下がりにより0.4%の下落となった。

図 25 財・サービス分類別指数の動き（前年比）



5 寄与度・寄与率

10大費目別の指数の変動が総合指数の前年比（平成24年平均＝0.0%）に及ぼした影響について、ウェイトを加味した寄与度、寄与率でみると表4のとおりである。

なお、平成24年は総合指数の前年比が0.0%であるため、寄与率はない（算出方法参照）。

表4 10大費目別寄与度・寄与率

（平成22年＝100）

費目	ウェイト	指数	前年比 (%)	寄与度	寄与率 (%)
総合	10,000	99.6	0.0	—	—
食料	2,496	100.1	0.5	0.13	—
住居	2,007	98.9	-0.5	-0.10	—
光熱・水道	711	108.3	4.4	0.33	—
家具・家事用品	364	91.3	-2.7	-0.09	—
被服及び履物	410	100.2	1.5	0.06	—
保健医療	434	98.1	-0.9	-0.04	—
交通・通信	1,556	102.0	0.4	0.06	—
教育	293	99.4	0.5	0.01	—
教養娯楽	1,153	92.5	-2.5	-0.28	—
諸雑費	576	103.4	-0.2	-0.01	—

物価の上昇に寄与した費目は、「光熱・水道」が電気代、ガス代などの値上がりにより0.33ポイントと最も大きく、次いで「食料」が国産米、うなぎかば焼きなどの値上がりにより0.13ポイントとなっている。

物価の下落に寄与した費目は、「教養娯楽」がテレビ、パソコンなどの値下がりにより-0.28ポイントと最も大きく、次いで「住居」が民営家賃などの値下がりにより-0.10ポイント、「家具・家事用品」が家庭用耐久財などの値下がりにより-0.09ポイントとなっている。

（算出方法）

$$\text{寄与度} = \frac{\text{当期の費目指数} - \text{前期の費目指数}}{\text{前期の総合指数}} \times \frac{\text{費目のウェイト}}{\text{総合のウェイト}} \times 100$$

$$\text{寄与率 (\%)} = \frac{\text{費目の寄与度}}{\text{総合指数の変化率}} \times 100$$

(参考) 静岡県消費者物価指数の年別推移

(平成22年=100)

年平均	総合		生鮮食品を除く総合		持ち家の帰属家賃を除く総合	
	指数	前年比	指数	前年比	指数	前年比
		(%)		(%)		(%)
平成4年	100.1	1.6	99.9	2.2	102.2	1.5
5年	101.7	1.6	101.7	1.7	103.7	1.4
6年	102.6	0.9	102.8	1.0	104.4	0.6
7年	102.2	-0.4	102.5	-0.3	103.5	-0.8
8年	102.5	0.3	102.8	0.3	103.4	0.0
9年	104.8	2.2	105.1	2.3	105.7	2.3
10年	105.6	0.7	105.5	0.4	106.6	0.7
11年	105.3	-0.3	105.5	0.0	106.1	-0.5
12年	104.9	-0.3	105.4	-0.1	105.5	-0.5
13年	104.3	-0.6	104.7	-0.7	104.6	-0.9
14年	103.3	-0.9	103.9	-0.8	103.4	-1.1
15年	103.5	0.1	103.9	0.1	103.6	0.1
16年	103.1	-0.4	103.5	-0.5	103.1	-0.4
17年	102.3	-0.8	102.7	-0.7	102.2	-0.9
18年	102.7	0.4	102.9	0.2	102.7	0.5
19年	102.2	-0.5	102.3	-0.6	102.2	-0.5
20年	103.2	1.0	103.4	1.0	103.4	1.2
21年	101.3	-1.9	101.5	-1.8	101.4	-2.0
22年	100.0	-1.2	100.0	-1.5	100.0	-1.4
23年	99.6	-0.4	99.6	-0.4	99.6	-0.4
24年	99.6	0.0	99.7	0.1	99.8	0.2

(注) この表は、平成4年以降の指数(総合)の推移について、平成22年を100として換算し示したものです。